

〔科目名〕 経済変動論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目 展開科目
〔担当者〕 巽 一樹	〔オフィス・アワー〕 時間:授業終了後 場所:巽研究室(529)	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 経済変動論は、景気循環や経済成長を含む経済変動を研究するマクロの経済学の一分野にあたる学問である。本科目では、経済変動論の初歩から解説を行う。最初に、経済変動に関する事実を記述した統計データに関する説明から始める。ネットや新聞に掲載されているような身近な経済記事からはじめ、主要な経済指標が表す意味、使い方、調べ方を説明する。そこで、日本の経済データを使って、これまで日本はどのように経済成長を辿ってきたのか理解する。 後半では、景気循環及び経済成長の理論について、説明する。まず、相互作用モデルを用いて、国民所得が決定するのか説明し、景気循環の基礎について理解する。合わせて、日本の経済指標とモデルを照らし合わせ、日本経済の景気循環について理解を深める。続いて、経済成長理論について説明する。経済成長の要因である人口、資本設備、技術進歩に着目しながら、経済成長のメカニズムについて理解する。 また、受講生の興味に応じて、経済モデル上における景気循環及び経済成長について、コンピュータを使ってシミュレーション実習を行う。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目で学ぶ経済モデルの多くは「マクロ経済学」でも学ぶ重要な理論である。「マクロ経済学」では、モデルを解くための計算や作図のために多くの時間を割いたが、本科目では、モデルが現実のどのような部分を説明しているか理解することに焦点を当てる。そのために、主に日本経済のデータを使い、現実とモデルに整合性について理解することを目指す。 経済指標の調べ方や使い方を学ぶことによって、3年次以降の科目におけるレポートや研究に役立てられることが期待される。また、マクロ経済モデルを学べば、GDP や物価水準の決定する仕組みについて理解できるようになり、新聞記事やニュースを正しく読み取る力が身に付けられる。官公庁や金融機関に就職したいと考えている学生にとっても、政策効果を分析する手助けとなる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標は、経済指標のデータを自ら調べ、評価し、活用できることである。問題演習や他の受講生との議論を通じて、経済記事や身の回りの経済事象を正しく理解することができることを目指す。また、3年次以降の科目におけるレポートや研究にこれらの技術を役立てられることを期待する。 最終目標は、景気循環や経済成長について、理論モデルと経済データを使って説明できることである。具体的には、理論モデルが現実のどういった部分を説明しているのか、式及び図を使って理解できることを目指す。公務員を志望する学生にとっては、政策効果の分析や政策立案力を高められるようになる。民間企業を志望する学生にとっても、経済動向を適切に把握する助けとなる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 担当者他科目において「板書の字が小さい」、「声が小さい」、「試験対策の問題が欲しい」等のコメントがありました。文字の大きさに注意し、板書をするようにします。説明の際、声量・マイクの音量に注意します。また、演習を行うための時間を昨年度「マクロ経済学」よりも多く確保したいと思います。		

〔教科書〕 関根 順一 (2021). 『基礎からわかる経済変動論 (第3版)』. 中央経済社	
〔指定図書〕 二神 孝一, 堀 敬一 (2017) 『マクロ経済学 (第2版)』, 有斐閣 福田 慎一 (2020) 『金融論 -- 市場と経済政策の有効性 新版』, 有斐閣 小林 照義 (2020) 『金融政策 (第2版)』, 中央評論社	
〔参考書〕 西村 幸浩 (2013) 『財政学入門 (経済学叢書Introductory)』, 新世社 デビッド・ローマー (著), 堀 雅博 他 (翻訳) (2010) 『上級マクロ経済学』, 日本評論社	
〔前提科目〕 特になし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験 90%及びレポート 10%で評価する。期末試験の持ち込み資料は不可とする。	
〔評価の基準及びスケール〕 評価 得点比率 A 80%～100% B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 50%～60%未満 F 50%未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義は、受講生の皆さんの理解度や関心に応じて内容を調整しています。どんなに些細な問題でも疑問に思ったことがあれば、質問してください。受講生が疑問点を持ったまま授業を進めず、着実に理解できることを確認した上で、授業を進めていきたいと考えております。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 経済変動とは 内 容: 日々変化する経済、主要な経済変動 教科書・指定図書 教科書第1章
第2回	テーマ(何を学ぶか): メディアでみる日々の経済変動 内 容: 経済報道と経済変動、メディアの経済報道、経済記事の種類 教科書・指定図書 教科書第2章
第3回	テーマ(何を学ぶか): メディアでみる日々の経済変動 内 容: 主な経済指標、景気動向、経済記事の読み方 教科書・指定図書 教科書第2章

第4回	テーマ(何を学ぶか): 経済統計でわかるマクロ経済 内 容: 国民所得、経済成長 教科書・指定図書 教科書第3章
第5回	テーマ(何を学ぶか): 経済統計でわかるマクロ経済 内 容: 1人あたり国民所得、国民所得の三面等価、貨幣賃金率と実質賃金率 教科書・指定図書 教科書第3章
第6回	テーマ(何を学ぶか): 経済統計でわかるマクロ経済 内 容: 失業率、物価上昇率 教科書・指定図書 教科書第3章
第7回	テーマ(何を学ぶか): 景気循環 内 容: 周期的経済変動、景気の半断 教科書・指定図書 教科書第4章
第8回	テーマ(何を学ぶか): 景気循環 内 容: 好況期の経済状況、不況期の経済状況 教科書・指定図書 教科書第4章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 景気循環 内 容: 相互作用モデル、成長の中の循環 教科書・指定図書 教科書第4章
第10回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 内 容: 戦後日本の経済成長 教科書・指定図書 教科書第5章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 内 容: 統計的事実、経済成長の理論 教科書・指定図書 教科書第5章
第12回	テーマ(何を学ぶか): 経済成長 内 容: 技術進歩 教科書・指定図書 教科書第5章
第13回	テーマ(何を学ぶか): 経済発展 内 容: 近代経済成長、過去1000年の経済成長 教科書・指定図書 教科書第6章
第14回	テーマ(何を学ぶか): 経済発展 内 容: 近代経済成長の波及、経済発展の理論 教科書・指定図書 教科書第6章
第15回	テーマ(何を学ぶか): 経済発展 内 容: 2つの経済体制、変度から構造へ 教科書・指定図書 教科書第6章
試 験	